

## 編集後記

場史編さんの意義は今更申すまでもなく、場の発展経過や業績を整理するとともに、これらが県の農業の発展にどのような役割を果たしたかを見直し、これからの研究のあり方、方向を探ろうとすることにある。

徳島県においても史誌発刊の必要性を認め、矢野前場長時代から話題になり、若干の準備がすすめられていた。そして昭和58年の80周年が近づくに従い、現在すでに乏しい貴重な資料がさらに散逸する憂いがあり、戦後の激変した農業の経験者も少なくなり、100年史の編さんはきわめて困難になることが懸念された。このため、現在残っている資料をできるだけ多く集めて、史実のら列でも書き残しておかなければとの山本場長の固い決意で、準備のための第1回の編さん打合せ会が開かれたのが昭和56年7月1日であった。そして各科長、分場長で構成する編集委員会および数名の主任研究員を加えた編集幹事会を結成することとし、8月21日に編集委員会を開いて正式に場長から編さんの指示が行われた。なおこのような編集のための諸会合は昭和58年12月末までに合計35回に及んでいる。

その後、幹事会では経営科の柏木科長、三宅、本庄両主任研究員が中心となって資料の収集計画や資料の収集および整理をする一方で、近年発刊されている農林省農業技術研究所80年史、島根県農業試験場100年史、香川県農業試験場70年史などを参考に編集計画などの検討を行うとともに、年度別の試験項目や研究業績などについて、記載基準を作って整備を開始した。

資料については、昭和20年までの主要な記録を綴った103頁の手書きの未定稿場史が保存されており、戦前までのとりまとめの基礎資料とすることができた。

また、当場で発刊されいながら欠陥した資料が農林水産省北海道農業試験場や香川県農業試験場、宮崎県総合農業試験場に保管されていた。

明治中期から昭和10年頃までの本県の農業事情を知る上で大変参考になると考えられた「徳島県

農会報」が農林省農業技術研究所図書課に保管されており、1か月間借用し、複写製本を行った。

また、寺尾美之、佐藤靖臣、東條勝男、後藤田甚三の皆さんからは、当時の農業事情や古い農業試験場に関する多くの写真を提供していただいたが、資料の保管、整理がいかに大切であるかを痛感させられた。

このような準備をすすめる上で最も心配したのは予算の獲得であった。当場の主管課である農業改良課の御尽力と当局の御理解により、58年度当初予算に満額が認められたことはまさに感激であった。

いよいよ昭和58年4月1日、80年史編集室を設置し、資料の整理にとりかかった。場長の方針として①執筆は職員全員が分担して行う。②組織、施設、備品の購入など明らかな事実はすべて記載しておく。③写真はなるべく多く使用する、などの基本事項や記載要領を検討して執筆のスタートを切った。

しかし、いざ執筆となると、それぞれ忙しすぎるくらいの経常的な仕事を持っており、試験場で執筆のため机に向かう時間は少なく、執筆の大部分が勤務時間外に行われることが多かった。また執筆を進めるに従って、当初予定していた資料だけでは満足できず、方々の図書室や当時の先輩達を頼っての事実の確認などに思わぬ時間をとり、当初の脱稿予定期限を2回も延長して全部が出揃ったのは11月下旬であった。

一方これと並行して思い出の記を先輩の皆さんをお願いしたが、8月下旬には大部分のもが出揃い、それぞれの時代の様子や苦勞が記されており、当時を一緒に過ごした者にとってもよい思い出になることであろう。

また、果樹部門については農業試験場の所管であった昭和30年7月までをとりまとめ、果樹試験場宮川経邦氏、中川正視両氏の校閲をいただいた。

しかし、編集に入ってみると、当初の予想とはかなり異なっており、部門別内容に差があり、同

じ部門でも執筆者によって文章や表現法にも個人的特徴があった。また研究業績のまとめも作物別分類に記載することにしたが、科によって対象作物数が異なるため内容的にも当然差があり、このようなまとめ方にも問題のあることがわかった。しかし書き替える時間的な余裕はなくそのままとなった。さらに用語、用字などについても一応統一をとったつもりであったが、集まってみるとさらに部門によって使い方に差があり、編集幹事が苦勞した。いろいろ問題もあると思われるが最終的には学会用語に準じた。このように編集上の問題点も種々認められたが、全員が参加して作成することに意義を置いたため、これもやむを得ないことと思っている。

後日、農業試験場がさらに発展を続け、新しい年史が発刊される際にはこれらの問題点も正され、足らざるは補い、より完成していただけるものと確信している。

(阿部泰典記)

## 編集委員および編集幹事

委員長 山本 勉  
 委員 ◎阿部泰典 ◎永井洋三 原 春雄  
 川人 浩 ◎宮田 昇 ○大石岩雄  
 (野村啓起) 森 良英 小山 弘  
 町田治幸 住友昭利 中野隆司  
 野口義弘 ◎柏木弥太郎 林甚太郎  
 佐竹治男 福岡省二 丸尾包治  
 ○川口公男 ○三宅節 ○本庄栄二  
 ○谷本温輝 ○野本陽一

◎編集委員兼編集幹事

○編集幹事

( )は旧委員

## 執筆 者 一 覧

### 第1編 沿革

第1章 創立の背景と経緯 柏木弥太郎  
 川口 公男  
 第2章 明治時代 柏木弥太郎  
 川口 公男  
 第3章 大正時代 本庄 栄二  
 野本 陽一

第4章 昭和時代(戦前) 三宅 節  
 谷本 温輝  
 第5章 昭和時代(戦後) 山本 勉  
 阿部 泰典

### 第2編 研究業績

第1章 稲作に関する研究 小山 弘  
 佐竹 治男  
 第2章 麦作に関する研究 酒井 勇夫  
 広田 年信  
 第3章 特用作物に関する研究 小山 弘  
 第4章 飼料作物・草地に関する研究 本庄 栄二  
 小山 弘  
 第5章 野菜に関する研究 町田 治幸  
 川田 富雄  
 古藤 英司  
 小川 純一  
 板東 一宏  
 第6章 花きに関する研究 住友 昭利  
 浦上 好博  
 第7章 果樹に関する研究 柏木弥太郎  
 第8章 土壤肥料に関する研究 中野 隆司  
 林 捷夫  
 川口 公男  
 黒島 忠司  
 岡田 俊美  
 第9章 病害虫に関する研究 野口 義弘  
 谷本 温輝  
 加々美好信  
 金磯 泰雄  
 貞野 光弘  
 第10章 農業公害・農薬残留対策・  
 農薬分析等に関する研究 永井 洋三  
 井内 晃  
 第11章 農業経営に関する研究 柏木弥太郎  
 三宅 節  
 本庄 栄二  
 第12章 農業機械に関する研究 林 甚太郎  
 野本 陽一  
 第13章 原原種・原種の育成配布 佐竹 治男  
 後藤田栄一  
 川人 浩  
 長居 勝美  
 細川幸之助  
 川下 輝一

第15章	海南分場における研究	福岡 省二 隔山 普宣	第2章	農業教育機関	森 良英
第16章	阿南筍試験地における研究	丸尾 包治	第3章	併設された他の機関および施設	山本 勉
第17章	生比奈柑橘試験地における研究	柏木弥太郎	第4編	天皇陛下巡幸および行事、催物、その他	山本 勉
第18章	富岡分場における研究	小山 弘 藪内 和男 阿部 泰典	第5編	資料	
第19章	大山果樹試験地における研究	柏木弥太郎	第1章	試験研究項目一覧	各 科 川口 公男 柏木弥太郎
第20章	阿波原種農場における業績	小山 弘 藪内 和男	第2章	研究業績一覧	各 科 野本 陽一
第21章	板東園芸試験地における業績	阿部 泰典	第3章	組織, 機構, 人事, 予算	本庄 栄二 宮田 昇
第22章	藍住分場における研究	阿部 泰典	第4章	出版物目録	各 科 谷本 温暉 三宅 節
第3編	農業機械研修・教育機関など		第5章	年 表	各 科 編集幹事
第1章	農業機械研修	原 春雄 高橋 恒水			

## 徳島県立農業試験場八十年史

昭和58年12月30日印刷・発行

編集兼発行者 徳島県立農業試験場

〒779-32 徳島県名西郡石井町石井1660

電話 08867-4-1660代

印刷所 徳島市佐古3番町8-14

(株)教育出版センター

扉題字 徳島県立農業試験場長 山本 勉